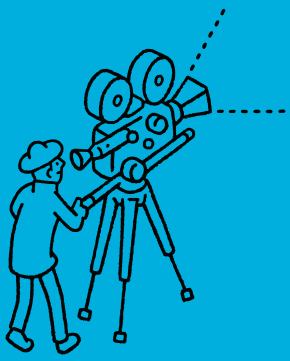
KOBE FILM OFFICE

神戸フィルムオフィス20周年記念

KOBE FILM OFFICE 20TH ANNIVERSARY

神戸で撮影するということ



わたしと神戸フィルムオフィス

水谷豊さん、山崎貴さん、街のみなさん
サポーターが振り返る、撮影現場で印象的だったこと

スクリーンに映された神戸　by 金原由佳

テレビで見た神戸　by 安田謙一

神戸のロケ地名鑑

神戸フィルムオフィスのスタッフ奮戦録

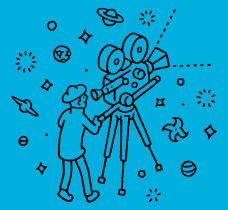
神戸フィルムオフィス創立前夜

神戸のロケ地名鑑

旧居留地

旧居留地の中でも、通りごとに建物の雰囲気や交通量が異なるため、ロケの条件に合わせて撮影場所はピンポイントで選ばれる。 中央分離帯のある京町筋、街路樹と建物のコントラストが美しい浪花町筋、左右の近代建築に包まれるような明石町筋など、いずれにしてもロケ地の宝庫。

〈おもな撮影作品〉映画『僕の彼女はサイボーグ』『アウトレイジ ビヨンド』『少年H』『ゲノムハザード　ある天才科学者の5日間』『紙の月』『繕い裁つ人』、ドラマ「上流階級～富久丸百貨店外商部」「まんぷく」



神戸フィルムオフィスは20周年を迎えました。

ある日、神戸のどこかの町に突然たくさんの人が現れ、運び込まれる美術セット、照明機材、カメラ…そう、撮影の始まりです。「本番っ！ よーい、スタート！」という声に緊張が走り、その場にいる全員が固唾を呑んで撮影現場を見守ります。こんな風景が神戸のさまざまな場所で見られるようになってから20年。その歩みを振り返るとともに、多くの映像制作者のみなさんが語る神戸のまちの魅力、協力して下さった多くの方々の想い、そして、神戸フィルムオフィスが支援してきた作品の数々をご紹介いたします。

20th

わたしと神戸フィルムオフィス

神戸フィルムオフィスとさまざまに関わりのある映画やドラマの関係者、街のみなさんからの声を集めました。

YUTAKA MIZUTANI

ACTOR/DIRECTOR

水谷豊さん

俳優／監督

みずたにゆたか◎1968年『バンバイヤ』で初主演。2000年から続く『相棒』シリーズは国民的刑事ドラマに。2019年、2作目となる監督作、映画『轢き逃げ 最高の最悪な日』は神戸ロケを中心に完成させた。

――『轢き逃げ　最高の最悪な日』[*1]を神戸で撮影された経緯を教えてください。

僕が書いた脚本では、ある地方都市という設定にしていたんですが、撮影にあたって、撮影監督の会田（正裕）さん[*2]に相談をしたところ、すぐに「神戸でどうですか」って話になったんです。すると、いろんなイメージが湧いてきて、たしかに神戸がぴったりだなと。それから、神戸のイメージにあわせて脚本も書き足しました。

――神戸ロケが映画作品に反映したところもありましたか。

ロケの候補地としていろんな神戸の場所を見せてもらって、使わないのがもったいないくらいでしたけど、もちろん、映画の尺には限りがありますから使う場所を決めなきゃいけない（笑）。特に印象的だったのは、大企業のオフィスで撮影ができればと考えていたら、これぞ一流企業というビル（Asia One Center）内で撮影ができたこと。映画のラストシーンで使った六甲山中腹にある、神戸の住宅地からオフィス街、海まですべてが見渡せる場所（六甲ロケーションスタジオ）というのも、自分の頭の中で思い描いていた以上のロケ地でした。あとは、港の赤い橋（神戸大橋）。あの橋を見たらどうしても自転車で渡りたいと思っちゃいますよね（笑）。

――実際、『轢き逃げ』では神戸大橋を自転車で激走する水谷さんの姿が映し出されましたね。

僕は、『少年H』のときにもロケで神戸に伺いましたけど、俳優の仕事だと自分の内側に入りこまなきゃいけないので、周囲の細かなところまで神経がいかないところがあるんです。それはたぶん、一般の方の日常生活もそういうもので、普段暮らしているなかでは建物や街のことをそこまで意識されないと思います。生きること、生活するというのはそういうことですから。ただ、『轢き逃げ』のときは監督という立場でしたから、あらためて客観的にいろんな神戸を見ることができたんだろうなと思います。

――カメラを通してみる神戸はまた違ったものでしょうか。

カメラというのはとてつもなく寄ってみたり、引いてみたりできますよね。そういったカメラの力も借りることで、街の魅力にあらためて気づくということはありますね。神戸だと昼から夜への時間の移り変わり。これはいいものだなと思います。

――フィルムオフィスの役割や意義について思われるところを教えてください。

神戸フィルムオフィスが神戸の街ですでに信頼を築かれている、その信頼関係の上で私たちが撮影することができるのは、とても大きなことだと思います。僕自身、次なる神戸とのご縁がなにかないだろうかとまた思っているところです。

[*1] 映画『轢き逃げ 最高の最悪な日』は、水谷豊が監督・脚本・出演を務めた2019年公開作。東映配給。

[*2] 会田正裕氏はドラマ「相棒」シリーズをはじめ、水谷豊の主演した神戸ロケ作品『少年H』(2013) でも撮影監督を務めている。

TAKASHI YAMAZAKI

DIRECTOR

山崎貴さん

監督

やまざきたかし◎2000年『ジュブナイル』で監督デビュー。2002年の『リターナー』を皮切りに、『ALWAYS 続・三丁目の夕日』『寄生獣』『海賊とよばれた男』など、多くの監督作で神戸ロケを行なう。

――神戸フィルムオフィスとの最初の接点はなんでしょうか。

最初にご一緒した『リターナー』[*3]では、アクション映画として今までにないようなことをやりたいと相談をして、大爆発のシーンをいくつも撮りましたし、道路封鎖してのカークラッシュだとか、ヘリの上で機関銃を乱射する場面をもう1台のヘリから撮影するということまでやらせてもらいました。僕にとってもまだ2作目でしたので、「おー映画撮ってるぞ!!」とすごく興奮したことを覚えています。それで、日本でもこんなにアクションシーンが撮れるんだと思ってたら、実は、全然そんなことはなくて。神戸基準でロケ撮影を始めたのは、すごく贅沢なことだったのだと気づかされました（笑）。

――山崎監督には神戸ロケで撮影された作品が多くありますが、映画のカメラを通して見る神戸のよさってなんでしょうか。

山から海までの距離が近くて、その凝縮した中に入ってくるものがバラエティに富んでいることが魅力的だと思います。地形の力も大きいと思いますが、フレームを切った瞬間に、画面の構図としておもしろいものが存在している。昔から言われていることですが、どこを向いても絵になる街だなという感じがします。

――VFXなどの映像技術が向上するなか、ロケ撮影の意義をどう考えておられますか。

実際、技術が進むにつれて、ロケ撮影しなくてもやれてしまうことがあるし、ロケ撮影が贅沢なものになってきているのは確かです。ただ、僕はVFXでやりたがる人だと思われがちですけど、できるだけ実際のもので撮りたいんです。現実に存在する場所の持っている強さは、頭の中だけで考えたものを超えるところがあると思います。

――コロナ禍以降、ますますロケ撮影の機会は貴重なものになりそうですね。

そうですね。といっても、僕の映画では、神戸を舞台とするために神戸で撮るということはなくて。近現代や近未来を扱った作品がほとんどなので、ロケ撮影だったとしても、その場所が持つおもしろさや美しさをお借りして、映画に必要な時代性を表現しているというところがあります。それでも、やっぱり街の魅力というのは画面に映りこむもの。たとえ凄絶なシーンだったとしてもです。観光ガイド的なこれみよがしなことではなく、潜在的にその場所が持つ魅力をフィルムに定着させることは、たくさんお世話になっている神戸フィルムオフィスへの恩返しにもなるかなって、そこはいつも意識しています（笑）。

[*3] 映画『リターナー』は、山崎貴が監督・脚本・VFXを務めた東宝配給作品。港に停泊した船上での銃撃戦、バイクチェイスなどがポートアイランドで撮影された。

Interview

わたしと神戸フィルムオフィス Interview

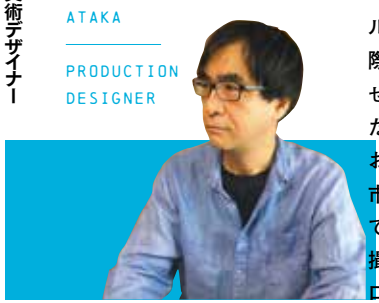
※文中のKFO＝Kobe Film Officeです

安宅紀史さん

美術デザイナー

NORIFUMI ATAKA

PRODUCTION DESIGNER



数々の映画で美術を担当。手がけた神戸ロケ作品は『ノルウェイの森』、『マイ・バック・ページ』、『スパイの妻』など。

神戸のロケ撮影で、印象的に思い出されるのは『ノルウェイの森』で使った神戸大学の学生寮[*4]です。実際にまだ現役で使われている場所に、時代設定にあわせた装飾を加えて、とてもスムーズな撮影になりました。神戸の街は懐が深いというのかな、新しいことをおもしろがって受け入れてくれる空気を感じます。都市の洗練されたモダンさと地方性、その両方をあわせて持っているのが特色じゃないでしょうか。僕らは、撮影準備の段階から撮影が終わった後のバラシまで、ロケ地と関わる時間は長くなりますので、そこでもKFOの方々にはいろいろとフォローいただいています。

*4 映画の舞台である1970年代の学生寮として、神戸大学の住吉寮、リニューアル前の国維寮がロケ地となった。

村上真一さん

大丸町2丁目自治会 会長

SHINICHI MURAKAMI

TOWN CHAIRMAN

阪神大震災の際にこのあたりもかなり被害があって、大丸山公園は避難場所にもなりました。その後、きれいに整備されて、自治会でもときどき見回り活動などを行なってきました。この公園で映画を撮影したいという話を聞いて、「なんでこんなところで」と驚きはしましたが、「いい映画を撮ってください」とすぐに賛成。撮影場所の準備段階から見ていましたので、撮影が大変なのはよくわかりました。ロケ中は若い子もかなり集まってきたので、「ちょっと悪い、いまは静かにしてやってね」と声をかけたりして、できるだけ僕らも協力しました。この映画は家内と見に行けたらなと思います。

長田区の大丸町2丁目にある大丸山公園は、神戸西部〜大阪南部まで見渡せる高台の公園。2020年夏公開の映画『思い、思われ、ふり、ふられ』で重要なロケ地となった。

田代純一さん

TOHOマーケティング 東宝宣伝室

JUNICHI TASHIRO

PUBLICIST

作品完成後のプロモーションや試写会、完成披露イベントだけでなく、撮影現場でのマスコミ取材などもセッティング。

撮影の現場はいい作品をつくることに専念していますので、宣伝に向けた下準備までなかなか行き届かないことが多いのですが、KFOさんが間に入っていただくと、宣伝まで含めた視点を持ってくださるので、とても仕事がやりやすいんです。なかでも2013年公開の『少年H』は、撮影前に降旗康男監督、水谷豊さん、原作者の妹尾河童さんと市長を表敬訪問させていただいて、作品が完成した後もプレミア試写会を開いたり、撮影場所となった異人館「萌黄の館」でのイベントを実践するなど、神戸とも長いスパンで関わったので、個人的に印象に残っていますね。

森本アリさん

旧グッゲンハイム邸管理人

ALI MORIMOTO

MANAGER

神戸・塩屋にある旧グッゲンハイム邸は明治末期の洋館。『繕い裁つ人』では結婚式場として使われ、アリさんも神父姿でカメオ出演。上はそのときの衣装。

旧グッゲンハイム邸は建物を多様に活用していますが、中でも映画やドラマのロケは建物を尊重し、大事に使ってくださりありがたいです。古い建物なので経年劣化が多く見られますが、その積み重なってきた傷跡のようなものもそのまま使われているとうれしくなります。13年前に廃墟状態だった旧グッゲンハイム邸を初めて目にした時、「黒沢清がここでホラー映画を撮ればいいのに」と話すような僕ら夫婦なので、その黒沢監督がこの建物を気に入って、『スパイの妻』[*5]で大々的に使ってくださったのは最近いちばんうれしかったこと。劇中での使われ方にも最大限のリスペクトを感じました。

*5 黒沢清監督が戦前の神戸を舞台に8K撮影に挑んだ作品。旧グッゲンハイム邸は主人公の貿易商夫妻の邸宅として登場。劇場公開は2020年10月。

廣瀬簡賜さん

生田警察署 交通課

YASUSHI HIROSE

POLICE OFFICER

撮影機会の多い三宮〜旧居留地は生田署の管轄内。撮影にともなう交通整理、道路封鎖などの申請取扱は交通課が手がける。

大がかりな撮影になると、交通規制をかけなければいけない範囲も広くなるので、地元の調整も大変になりますけど、そこはKFOがよくやってくれているなと感じています。ひとつの撮影を実現するためだけでも、いろんな細かい調整が必要になるので、KFOの担当者には事前に何十回と足を運んでもらうことも少なくありません。それでも撮影現場では何が起きるか予測しきれない。ほんとにダメな状態になったときには、警察と制作会社との間に立って、KFOの方から撮影中止を申し入れてくれることもありました。街に一度迷惑をかけてしまうと、その撮影はなんとか完了できたとしても、その場所ではもう二度と撮れなくなってしまいますからね。

伊藤剛さん

神戸ポートピアホテル 総支配人

TSUYOSHI ITOH

GENERAL MANAGER

作品のロケ地としてだけでなく、キャストやロケ隊の宿泊場所としても人気のホテル。2003年公開の『ラストサムライ』撮影時にはトム・クルーズ[*6]も宿泊。

お正月明けに深夜のロビーでジャッキー・チェンさんが『新宿インシデント』の暗殺場面を撮影したり、『アウトレイジ』の撮影では、スーツを着ていた私もその場でエキストラとして出演させていただいたり（しっかり画面に映っていましたので、私のカンヌデビュー作となりました（笑））と、個人的な思い出はたくさんありますけど、ホテルとしては、100人規模のロケ隊に1〜2か月ほど滞在いただけることがあるのはとてもありがたいことです。何台もの大型車両やロケバスを駐車いただく敷地をご用意できるというのも、当ホテルの利点だと思いますので、今後も神戸へのロケ誘致に協力させていただきます。

*6 トム氏は撮影場所となる姫路までポートアイランドのヘリポートからヘリで通ったという。

わたしと神戸フィルムオフィス

みんなの声 Q&A

神戸フィルムオフィスの活動を支えるKFOS（神戸フィルムオフィスサポーター）のみなさんに撮影現場での思い出をお聞きしました。名前（ペンネーム）とコメント、それぞれの個人的なベスト映画のタイトルもあわせて掲載します。

Q 撮影現場に参加して最も印象的だったこと

A ●25年連れ添った嫁さんが乳がんで亡くなって落ち込んでいた頃、**「心の傷を癒やすということ」**のエキストラに5日間参加。たくさんの方々とお友達にもなれて、ドラマの題名のように本当に心の傷が癒されました。｜江上力

●**『GANTZ PERFECT ANSWER』**で、今はなくなった中央市場跡で2晩エキストラ参加しました。ビルの爆発で逃げる通行人役です。そのシーンはビルの爆発で主役が車の上に落下、その衝撃で窓ガラスが砕け散ります。撮影のすぐ後にスタッフがチェックしている映像をのぞくと、もう映画のシーンがすごいレベルで完成していました。撮影の技術すげー!!｜おおみちゃん・『阪急電車』

●**『繕い裁つ人』**のロケ前日にエキストラ担当の助監督さんから、「明日大丈夫ですね」との電話。当日の朝にも念押しの電話。現場に行くと、私は新婦の父という設定でした。新郎の父をされた方とはその後の現場でも会って、今でも交流が続いています。｜近藤芳史・『繕い裁つ人』

●**『マイ・バック・ページ』**で。雑誌編集部員という役割でしたが、私までちゃんとメイクされて驚きました。｜かどたまこと・『ゴッドファーザー』

●**『死神の精度』**の雨のシーン。その日、結構雨が降っていたのでよかったなと思っていたら、さらに雨を降らせる車が到着してびっくり。その雨の中を何度も歩くのは大変でした。｜クーコ・『阪急電車』

●ドラマ**「赤い霊柩車」**に参加して、夏八木勲さんを身近に拝見していたので、訃報はショックでした。境内の木にもたれてジッと見つめておられたお姿は今も忘れられません。｜川畑みどり・『植物図鑑』

●**『デスノート』**で、現場スタッフとして参加して、トラックから机を下ろしたり、ケーブルの配線まで。エンドロールに自分の名前が映ったときの感動は今でも忘れられません。｜湯出原誠・『本能寺ホテル』

●NHK**「まんぷく」**の最終回シーンは、旧居留地のひと筋を閉鎖しての大がかりな撮影で、見物人も多く、エキストラながらに「見られてる感」が半端なかったです。昭和の雰囲気がする装いでということで、亡くなった親父のジャケットを着て形見のカメラをさげて参加したのもよい思い出です。｜秋田幸夫・『交渉人 真下正義』

●私のエキストラデビュー作品**『あずみ2』**。当時35歳で2児の父親に与えられた人生初の配役は、甲冑姿で、あずみ役の上戸彩さんに切り込む若武者役。作品のエキストラ募集の新聞記事と当時の手書きの応募FAXは色褪せた今でも、大切に保管しています。｜藤田靖三・『キングコング　1976年版』

●**『HERO』**の海岸ビルヂングでの撮影、検事役のはずでしたが、警備員役の方の衣装が入らずに交代。結果的に場面ごとに何度も登場し、松たか子さん、大倉孝二さんと絡んでの芝居まで。俺、持ってるなぁと（笑）。｜桑島光徳・『彼女がその名を知らない鳥たち』

●ドラマ**「沈まぬ太陽」**の神戸空港ロケで、救急隊に扮して担架で身長185cmの徳重聡さんを運ぶ場面。リハを3回した後の本番では腰が抜けそうになったのを鮮明に覚えています。｜前山裕之・『サウンド・オブ・ミュージック』

●初めてのロケ参加で、ドラマの内容などは当日の現地で知りました。それが六甲道駅崩壊の復旧ドラマ**「BRIDGE」**。六甲道駅の近くに住んで震災にあっていたので、そのドラマに参加できるなんてと鳥肌が立ちました。｜岩畔照行・『紙の月』

●フランスのオドレイ・フーシェ監督の**『メモリーズ・コーナー』**。被災者であることを条件に、当時の服装でJR鷹取駅に集合。撮影は旧二葉小学校の校舎（現・ふたば学舎）だった。私は、避難所である教室をウロウロ歩きまわる被災者の役目。幸い1回で監督のOKがでた。何ひとつよきことのなかったあの時期の、ささやかな自慢話であった。｜奥秀雄

●神戸フィルムオフィスが立ち上げられた当時、男性の登録が少ないと聞き、急ぎ応募したのが最初の思い出です。以来20年間、年に数回、仕事を調整しながらの参加でしたが、撮影現場を通していろんな職業を体験したり、俳優さんやエキストラの方たちとお知り合いになれたり、70年の人生に彩りを添えてもらったなぁと感慨深いものがあります。｜藤井史朗・『火垂るの墓』

●KFOS第1回支援作品**『走れ! イチロー』**に参加。終了予定を随分オーバーして、とにかく寒かった、ひたすら待ったという記憶が強い。田中まこさんが挨拶された10数年後の特別上映会で、ポートピアランドなど当時の神戸の姿が映っていて、映画は街の記録だと気づいた。｜hiro_kobe・『ライトスタッフ』

●**『紙の月』**で走行中の電車の中のシーンを撮るとき、スタッフ数名が外で車体を押して揺らしていました。車内の私たちも「身体を揺らして」と助監督にいわれ演技!? 楽しい舞台裏でした。｜落合弘・『ローマの休日』

●土曜ドラマ**「心の傷を癒やすということ」**の小学校での避難所生活シーンに参加。演者の方も制作スタッフの方も真面目に粛々と、それぞれの担当業務に従事されていたことが大変印象的でした。参加させていただく前は、もっと華やかな世界なのだろうと偏見を持っていましたが、視聴するだけの立場ではわからなかったことでした。｜なかたにひろし・『旅立ちの時』

●朝ドラ**「べっぴんさん」**のエキストラに当たり、神戸大学構内のロケでは「お金持ちA」の役をいただいて、衣装に着替え、大きなカバンを抱えて人力車に乗り…半日撮影。放送当日、楽しみにしていましたがすべてカットでした。｜内山利晶

●**「The Outsider」**で、アメリカ人監督の撮影の掛け声は、「ローリング」「バックグラウンド」「アクション」と3段階で、日本の「よーい」「スタート」とは違っていた。また、クランクアップの声に、スタッフ全員が抱き合って喜び、映画の1シーンを見ているようだった。｜田路勝彦・『たそがれ清兵衛』

KFOS募集中！

『ウルトラマンメビウス＆ウルトラ兄弟』撮影風景

神戸フィルムオフィスの活動は、KFOS登録サポーターのみなさまにも支えられています。KFOSは、2000年『走れ！ イチロー』の撮影のために約1000人の市民ボランティアエキストラのみなさまに来ていただいたことから始まり、2007年にはいまのKFOSの形に制度を整えました。2020年現在、その登録者数は約12000人です。

KFOSに登録いただいた方々には、ボランティアエキストラやボランティアスタッフ募集のお知らせ、神戸ロケ作品のご案内などをメールにてお送りしています。ご登録は、神戸フィルムオフィスのホームページで随時受け付けています。

➡http://kobefilm.jp

KIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸） | 中央区・ベイエリア

輸出する生糸の検査施設として建てられた施設。1927年築の旧館、1932年築の新館が並び立ち、現在は神戸のデザイン拠点に。撮影では特徴的な外観や階段部、廊下などが使われている。

〈おもな撮影作品〉映画『マイ・バック・ページ』『シャニダールの花』『牙狼GARO 月虹ノ旅人』、ドラマ「上流階級～富久丸百貨店外商部」「京都～神戸プロポーズ殺人事件」「女子的生活」「だから私は推しました」

高砂ビル | 中央区・旧居留地

旧居留地にある1949年築のビル。特徴的なビルの玄関を使った撮影だけでなく、部屋の中を改装しての撮影も。

〈おもな撮影作品〉映画『Sweet Rain 死神の精度』『新宿インシデント』『アウトレイジ』『黄金を抱いて翔べ』『ゲノムハザード　ある天才科学者の5日間』、ドラマ「警視庁警護課3」

スクリーンに映された神戸

文：金原由佳（映画ジャーナリスト）

1896（明治29）年、11月25日、神戸・花隈にあった社交機関、神港倶楽部にて、日本で初めて映画（活動写真）が公開された。エジソン社が開発したのぞき箱式の「キネトスコープ」を実業家、髙橋信治が購入し、一般公開。ここから日本のどこよりも早く、神戸と映画の深い関係は始まった。

幕末の1868年1月1日（慶応3年12月7日）、徳川幕府の最後の将軍、徳川慶喜が神戸港を開港。その翌々日に明治新政府が発足し、まさに時代の変わり目から神戸の街作りは始まり、外国人居留地が作られた。エキゾチックな街並みは早い段階から映画のロケ地に使われた。例えば神戸映画資料館で収蔵管理する1927年（昭和2年）製作の『黄金の弾丸』は殺人事件の謎を追う探偵もの。終盤、旧居留地でのカーチェイスが繰り広げられる。ハードボイルドが似合う街並みは今も変わらない。北野武監督はヤクザの血で血を洗う抗争を描く『アウトレイジ ビヨンド』（2012）で車からの銃撃シーンを撮り、井筒和幸監督は銀行強盗劇『黄金を抱いて翔べ』（2012）で狙われる銀行本店として1939年完成の神港ビルヂングを選んだ。

さて、ここからはストーリー上、神戸が舞台であることが重要な作品を紹介しよう。

戦争中の神戸を描いた『火垂るの墓』（日向寺太郎監督／2008）と『少年H』（降旗康男監督／2013）。原作者の野坂昭如と妹尾河童は共に1930年（昭和5年）生まれで、中学3年生という多感な時期に神戸空襲を経験した。海と山に挟まれ、東西に広がる神戸の地形はアメリカ軍によって実験的焼夷弾攻撃の地として選ばれ、1945年に128回もの空爆を受けた。『火垂るの墓』の主人公の家は御影、『少年H』の妹尾家は長田区。この距離の違いで少年たちの運命は大きく異なる。『少年H』では戦前、テイラーを営む父が仕上がった服を届ける先として北野町の異人館、萌黄の館が登場する。『火垂るの墓』の原作で重要な場所として出てくるJR神戸駅と阪急神戸三宮駅には今でも機銃掃射の跡が残っているので、確認してみてほしい。

神戸を語る上で1995年1月17日未明に起きた阪神・淡路大震災を避けては通れない。神戸フィルムオフィスの初年度の支援作品である大森一樹監督の『走れ！イチロー』は震災からの復興が題材で、賑わいを取り戻す元町高架下や当時オリックスの本拠地だったグリーンスタジアム神戸（現・ほっともっとフィールド神戸）が登場する。被災地で最も早く撮影が行われたのは95年10月から撮影が始まった山田洋次監督の『男はつらいよ　寅次郎紅の花』で、甚大な被害を受けた長田区菅原市場商店街の人たちの呼びかけで実現した。06年公開の万田邦敏監督の『ありがとう』は長田区鷹取商店街の消防団団長だった主人公の目を通しての復興までの長き日々が描かれる。フランスのジャーナリストが震災から15年目の追悼式を取材する内容の『メモリーズ・コーナー』（オドレイ・フーシェ監督）では重要な舞台である復興住宅棟としてHAT神戸で撮影が行われた。この作品と、井上剛監督の『その街のこども　劇場版』は2010年1月17日の東遊園地での追悼式典会場の様子で幕を閉じる。見比べてはどうだろうか。

神戸フィルムオフィスの支援作品には、震災直後からの神戸の風景の変遷がその都度、記録されている。三島有紀子監督の『繕い裁つ人』では中谷美紀演じるヒロインは祖母のアトリエを継ぐ仕立て職人。その腕に惚れ込んだ大丸の若い青年がブランド化を持ち掛ける。ヒロインは劇中、様々な思いを抱えながら復興した街を眺めるのだが、そこが旧摩耶道に至る雷声寺前の坂道。三浦貴大演じる藤井君は毎度あの坂を上って会いに行っていたのかと感心してしまう。

2015年の濱口竜介監督の『ハッピーアワー』になると震災の傷痕は直接出てこない。だが、30代後半の4人の女性たちの心はどこか虚ろだ。彼女たちが充足を求め、足を向けるのが神戸税関前にあるKIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸）でのワークショップ。実は4人のヒロインを含め、出演者は皆、KIITOで開催された濱口監督によるワークショップを経て出演していて、作品は国内外で高い評価を得た。ちなみにリニューアル前のKIITOで学園紛争最中の新聞社を再現したのが山下敦弘監督の『マイ・バック・ページ』。同じ建物でも美術監督によって見せる顔が大きく違って面白い。

私事だが神戸への帰省中、筧昌也監督の『Sweet Rain 死神の精度』の撮影に遭遇し、死神役の金城武が旧居留地の雰囲気となじんで佇むのをワクワクしながら見たことがある。神戸にいれば、映画撮影に恵まれる機会はあるだろう。そのときは、音を立てず、静かにその幸運を享受してほしい。

きんばらゆか●神戸市出身。25年にわたり、1000人以上の映画俳優のインタビューを実施。雑誌や新聞などで映画評を執筆している。

Kobe on Screen

Report

ロケ現場レポート！

文／田辺ユウキ

グランドジャンプで連載されていた人気漫画を、福士蒼汰主演でドラマ化した「DIVER-特殊潜入班-」[*1]。撮影は、物語の舞台にもなっている神戸を中心に行われた。今回、レポートのために潜りこんだのは、旧加藤海運本社ビル[*2]だ。

某月某日

撮影本隊が旧加藤海運本社ビルに到着。数台のワンボックスカーの荷台には撮影機材が所狭しと積み込まれており、数名のスタッフたちが手早く降ろし、ビル内へと運び込んでいく。出入り口では感染予防対策として、入館者全員に手指消毒液を噴きかけていく。

休憩する間もなく監督は各スタッフと打ち合わせに。福士蒼汰演じる黒沢兵悟が診療室を訪れる場面の撮影だが、カメラのアングルなどを調整するため、机の位置を何度も直す。このシーンの背景に映るタイルの壁は、同作の撮影のためだけに作られたもの。

作品台本は常に肌身離さず、何度もページをめくったりするため、ごわごわに。エアコンがない蒸し暑い室内で、出演者、スタッフもマスク、フェイスガードを必着しているため、腕まで汗だく。全員が「いいドラマを作るため」という気持ちで必死に仕事をしている。

撮影直前、現場は慌ただしさを増す。と、ここでスタッフから「電源が簡単に落ちてしまうので、電気を安易に使わないように！」と呼びかけられる。また、この日の撮影には医療監修をつとめる医師も参加して、医者役の片瀬那奈を指導。なめらかな手つきを見て、医師は笑顔で「これならバイトできる！」と太鼓判。そのひと言で現場の緊張がやわらいだ。

何もなかった部屋も、監督らが撮影の様子をチェックするモニタールームへと早変わり。業界用語で「ドライ」と呼ばれるリハーサルを何度かおこなって、「じゃあ、本番」の掛け声。するとスタッフたちが「本番！」と口々にしていく。その声は外にいるスタッフにまで届けられる。映像の撮影現場ではちょっとした物音でもマイクが拾うので、注意喚起の意味も。そして、監督の「よーい、スタート！」の声があがる。

*1 「DIVER-特殊潜入班-」は、カンテレ・フジテレビ系全国ネット2020年9月22日夜９時スタート・全5話。
*2 1936年に建てられた旧加藤海運本社ビルは、数多くのロケ撮影に使われてきた。本来は、撮影前の状態に戻す原状復帰が鉄則だが、ここでは撮影時の美術や小物の一部が手付かずで残されている。たとえば、メインルームの床は、ドラマ「The Outsider」の撮影で大理石状に替えられ、その後、『スパイの妻』の撮影でリメイクしたものが今の状態に。

テレビで見た神戸

文：安田謙一（ロック漫筆）

友達から「過ぎし日のセレナーデ」という神戸でロケされたテレビドラマを教えてもらった、まさにその日に、「神戸でロケされたドラマとCM」についての原稿を依頼されたので驚いた。

「過ぎし日のセレナーデ」は田村正和が主演したスケールの大きな恋愛ドラマで、1989年の秋からフジテレビ系列で２クールに渡って放映された。廃墟になってちょうど20年目くらいの摩耶観光ホテル、今も営業を続ける茶房ジャヴァ、和田岬線の車内、摩耶ケーブルなど、バブル全盛期、阪神・淡路大震災前の神戸の風景がこれでもかと映し出される。小さな川にかかった橋で出入りする特徴的なアパートも特定できた。よっぽど近所の住人か、私のように用もないのに神戸をうろうろしている人間にしかわからない場所だろう。

などと、偉そうに書いているが、その断片をYouTubeで観ているだけで、ドラマ本体はまだ観ることまでは出来ていない。

ここからは21世紀の、すなわち、神戸フィルムオフィスと関わる作品の話。アーカイヴという視点において、映画と比べるとドラマは圧倒的に軽視されている。最初はNHKの単発ドラマとして放映され、のちに劇場版映画として公開された「その街のこども」などは例外中の例外だろう。

神戸フィルムオフィスのエキストラに登録している。テレビ朝日のドラマスペシャル「砂の器」では、佐々木蔵之介扮する作曲家がオーケストラの指揮をするシーンの観客のひとりとして参加した。11年の東北の地震で放映がかなり遅れたのが記憶に残っている。

NHK朝の連続テレビ小説「べっぴんさん」では1970年の大阪万博のシーンが六甲アイランドの神戸ファッションプラザで撮影されていた。実際に万博を体験したものとして、これには参加したかったが、都合があわずに断念。テレビの前で涙をのんだ。

エキストラとは別だが、サンテレビ初制作連続ドラマ「元町ロックンロールスウィンドル」では、映る景色のすべて、ロケ地がわかるという不思議な体験をした。同時に神戸以外でロケされたシーンでは、あ、尼崎の三和市場！と鋭く反応した。

三浦友和が出演する福屋不動産のCMで、灘丸山公園でロケしていることに気づいたときは嬉しかった。ここもまた、近所の住人か、神戸をうろうろしている人間にしかわからない場所だ。ビーナスブリッジにひけをとらない穴場の有効利用に、さすが、と唸った。

やすだけんいち●1962年、神戸生まれの神戸育ち。ロック漫筆家で、エキストラ要員。「神戸でロケされた映画」についての話は著作『神戸、書いてどうなるのか』（ぴあ）にいくつか入っています。新刊は『ライブ漫筆』（誠光社）。

Kobe on TV

新港第4突堤 | 中央区・ポートターミナル

神戸港にある客船用埠頭。水深12mの岸壁をそなえて、大型豪華客船も停泊できる。突堤の南端部は、真上を走る赤い神戸大橋の橋げたとあわせて、港ロケに使われる。

〈おもな撮影作品〉映画『リターナー』『わが母の記』『亜人』、ドラマ「パンドラ～永遠の命」

神戸税関 | 中央区・ベイエリア

交差点に面して堂々と建つ2代目庁舎は、神戸港の要として1927年に建設された近代化産業遺産。ランドマークの時計塔や3層吹き抜けの玄関ホールは絵になる。

〈おもな撮影作品〉映画『ALWAYS 三丁目の夕日'64』『日本のいちばん長い日』『海賊とよばれた男』『アルキメデスの大戦』、ドラマ「検事の本懐」「まんぷく」

塩屋9丁目の階段 | 垂水区・塩屋

起伏の多い塩屋のまちにあって、海の方向に向かって続く長い階段。海、すり鉢状になった塩屋の町並み、ふもとを横切る鉄道まで望むことができる。左右をフェンスで囲われた純粋な階段というのもロケ地向き。

〈おもな撮影作品〉映画『フォルトゥナの瞳』、CM「ダイワハウス　ここで一緒に」

灘丸山公園 | 灘区・六甲

摩耶山の中腹にある灘丸山公園は、神戸の街と海を見わたす大眺望が広がる絶好のロケスポット。もともとは神戸製鋼所の野球場だったという。

〈おもな撮影作品〉映画『繕い裁つ人』『ふたりの旅路』『彼女がその名を知らない鳥たち』、ドラマ「女刑事みずき」「桜2号」「二十歳と一匹」「BRIDGE　はじまりは1995.1.17神戸」

神戸フィルムオフィス

日々の活動すごろく

神戸フィルムオフィスによるロケ支援の流れをすごろくでご覧ください。

Workflow

START

映像関連の
イベントに参加して
制作者たちにPR
1マス進む

神戸でロケが実現するよう誘致活動をしています

プロデューサー
から問い合わせが
1マス進む

ロケ地を探して、
カメラ片手に
まちをてくてく
1マス進む

ロケ地を提案するも、
撮影にはつながらず
2マス戻る

残念。でも、
今度こそ!

撮影候補の
場所をまとめた
ガイドブックを発行
1マス進む

こんなところ、
いかがですか?

新たな問い合わせ!
制作者と市内を
ロケハンへ
1マス進む

ようやく
ロケ地が決定!
1マス進む

ヤッター!!

撮影に向けて、
地元との調整を進める
1マス進む

提出予定の
申請書に不備発見。
いちから書き直し
1回休み

あちゃー…
間に合うかな!?

撮影隊に
宿泊施設やお弁当業者、
レンタル業者を紹介
1マス進む

撮影隊が神戸に滞在することで神戸への直接的経済効果や雇用を促進しています

撮影で多数の
エキストラが必要に。
KFOSに協力依頼!
1マス進む

いよいよ
クランクイン
1マス進む

撮影現場での約束事が守られているか確認し、突発的なトラブルに対応できるよう現場に立ち会っています

突然の大雨で
撮影がストップ!
1マス戻る

各所のスケジュールを
再調整しないと…!

無事に撮影終了。
監督から「神戸で素敵な
シーンが撮れました」
とのお言葉!
1マス進む

公開にあわせ、
作品を通して神戸の
魅力をPR
1マス進む

神戸への集客による間接的経済効果を促しています

作品を観たひとたちから
うれしい声が届く
1マス進む

あの場所に行ってみたい!

この街がこんなに
素敵なところだったなんて!

神戸フィルムオフィスの活動が、シビックプライドの醸成につながるよう努めています

準備していた
別作品が
クランクイン直前で
撮影中止に…
STARTに戻る

新たな
ロケ地候補を探しに
まちをうろうろ
1マス進む

ロケ地
データベースを拡充、
次なるロケに備える
1回休み

そしてロケハンの
日々は続く…

GOAL

目指すは神戸版『ローマの休日』!

KOBEFILMOFFICE

神戸フィルムオフィスのことをあらためてご紹介します。

2000年9月13日、神戸フィルムオフィスは撮影に関する神戸市の公的な窓口（フィルムコミッション）として、誕生しました。それから20年の間に、3000件を超える映画・ドラマ・テレビ番組・CMなどの映像作品を誘致し、支援してきました。これほど多くの作品が神戸で撮影されるのは、どんな物語にでも提案できるほど神戸の風景が多彩だということと同時に、多くの市民のみなさまが撮影を温かく見守り、ロケ場所の提供、エキストラや美術作業へのボランティア参加など、さまざまなご協力をいただけることが大きな理由だと思っています。

私たちが「この場所でロケをさせていただきたい」とお願いに行くと、「なぜここなんですか?」と不思議そうに聞かれることがあります。しかし、出来上がった作品を見ていただくと、地元の風景が美しく登場することを驚き、喜んでいただけるのです。

物語の舞台は、誰もが知っている場所ではなく、地域の人しか知らない街角や路地といった生活の場であることも多いため、私たちは日々、街を歩いて、そんな風景を探しています。そして、これからの20年も、まだ見ぬ神戸の風景がスクリーンや画面に登場していくことを、この街の人とともに喜び合いたいと願っています。

神戸フィルムオフィス代表
松下麻理

Introduction

スタッフ奮戦録。

Netflixドラマの重要なシーンで、港島トンネルを首都高速のトンネルに見立てて撮影が行われました。このトンネルを撮影で封鎖するのは初めてのことで、管理者と最初の話し合いを持った際は、制作サイドと撮影条件が折り合わず、どうしたものかと思いましたが、何度も交渉・協議を重ねた結果、撮影実施に一歩前進。並行して、近隣住民やトンネル利用者の意見も伺いつつ、事前説明や告知をすることで、撮影が可能になりました。作品はまだ完成していませんが、港島トンネルがどんな風に映し出されるか楽しみです。（中村恭一）

映画『GANTZ』シリーズは解体前の旧神戸市中央卸売市場本場で撮影が行われました。当初の台本では市場や商店街という設定はなかったのですが、解体を控え、ある程度自由にしてもいいということで、撮影が決定。戦闘シーンでは、銃撃や爆破する撮影が夜な夜な続き、騒音のお詫びにいったこともありました。映画公開後に、旧卸売市場に勤めていた方や地元の方々に、「自分たちの卸売市場を映画の中に残してくれてありがとう」と声をかけていただいたときは、思わず涙しました。（土屋千佳）

ドラマ「BRIDGE　はじまりは1995.1.17神戸」は、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたJR六甲道駅の復旧を軸に、作業員と地元の方々との交流を事実を元に描いた物語です。撮影準備中は、特に被害の大きかった地域のみなさまには当時のことを思い返すことで嫌な思いをさせてしまうのではないかと逡巡することもありましたが、お話を伺い、復興への思いを撮影スタッフと共有することで、地元のみなさまと一体になって撮影を進められたのではないかと思っています。撮影後には地元の方々に「ドラマの放送を楽しみにしてるよ！」という言葉をかけていただき、身が引き締まる思いがしました。（前田実香）

テレビ番組は、企画が立ち上がってからロケまでの時間が短い場合が多く、場所の許可申請に苦労することがよくあります。 神戸が少しでも全国に届くならと粘り強く交渉を重ねますが、放送されるときは一瞬のことも。次はもっとたくさんの神戸を撮ってもらえたらと欲が出て、常に新たなロケーションにアンテナを張るようにしています。（須波美貴）

（左から）Netflixドラマ、港島トンネルでの撮影風景／『GANTZ』旧神戸市中央卸売市場本場での撮影風景／『BRIDGE　はじまりは1995.1.17神戸』JR六甲道駅前での撮影風景

Eve of Foundation

初代代表田中まこさんに聞く、

神戸フィルムオフィス創立前夜

「神戸を元気にしたい、そんな覚悟が生まれたのです」

――2000年9月13日、神戸フィルムオフィス創立。その発端からリサーチ、創立準備にいたるまで奔走したのが田中まこさん。もともと番組制作のADなどを務めていたが、持ち前の実践的な英語力を買われて、70年代にはテレビ番組「夜のヒットスタジオ」で海外ミュージシャンの通訳を務めるようになっていた。その頃にはすでに映画界との関わりがあったとのこと。

田中　通訳はミュージシャンがメインでしたけれど、雑誌の取材やイベントなどで映画関係の通訳もやっていました。当時はジョージ・ルーカスさんの通訳も。映画業界には戸田奈津子さんがいらっしゃるので、大きな記者会見などは戸田さんがされていましたが、他にも作品はたくさんあるので、私も仕事をさせてもらっていました。映画の権利を売買していた日本の代理店の翻訳も引き受けていたので、映画の契約書を作成して、交渉を行なうこともありました。

――キョードー東京での勤務経験もあり、海外アーティストやスポーツ選手の招聘にまつわる交渉、通訳を手がけていたことも。一方で、ラジオの世界では、構成作家から気づけば「オールナイトニッポン」のアシスタントに抜擢され、裏方だけでなく表舞台での活動もスタートしていた。

田中　そんなある日、映画関係の代理店の社長からの紹介で、阪神・淡路大震災の復興のために、映画を活用して神戸を盛り上げたいという神戸市の企業立地課の方から相談を受けました。撮影スタジオをつくるというアイデアもあったようですが、私が思い当たったのはフィルムコミッション。アメリカの映画を観ていると、エンドロールに必ずフィルムコミッションのクレジットが入っているのに、日本では見かけたことがなかった。フィルムコミッションは行政が手がけるものなのですが、それに手をつけるような役所が日本にはまだなかったのです。まさか自分がやることになるとは思っていないので、わりと無責任に「フィルムコミッションがいいのでは？」と提案しました（笑）。

――映画やテレビ番組など、海外から日本ロケの相談を受けて、日本での撮影にアテンドする仕事もすでに行っていたまこさんだったが、海外のフィルムコミッションについてはその存在を知る程度で、具体的なことはまだ何も知らなかった。

田中　神戸市の担当の方がとても興味を持たれ、まずフィルムコミッションのリサーチをするという仕事を依頼されました。それで、アメリカの国際フィルムコミッショナーズ協会（AFCI）に連絡をしたところ、「まずは１週間の研修を受けてください」と。それでアメリカに行ってみたら、日本にフィルムコミッションができるかもしれないということに、アメリカの方たちも関心を持ってくださいました。というのも、ハリウッドでは、「日本での撮影は難しいと言われているが、チャンスがあればやってみたい」という思いを持っている製作者が多かったのです。

――研修の内容やアメリカでのリサーチを神戸市に報告。それを受けて、実際に神戸フィルムオフィスの立ち上げが決定された。当初、担当者が育ち、軌道に乗るまで、くらいの気持ちで代表を引き受けたというまこさん。ところが、だんだん「私自身が神戸の人間になって、本気でやるべき仕事だ」という思いがふつふつと湧いてきたという。

田中　私の生まれは大阪ですが、1970年～73年まで西宮市に住んでいて、神戸にもしょっちゅう来ていました。阪神・淡路大震災の翌日、西宮で暮らしていた祖母を助けるために来たとき、震災直後の街を目の当たりにして言葉にならなかった。でも、当時の私は祖母を東京に連れて行くことしかできず、街のために何もできなかったというわだかまりがずっと自分の中にありました。それが、フィルムオフィスの準備で毎月のように神戸に通ううちに、私が街のために何かできるとしたら、今のこのタイミングなのだという気持ちが強くなってきて、私の第二の人生は神戸で過ごすと決意しました。なんとしても神戸フィルムオフィスを成功させて、その活動を通して神戸を元気にしたい、そんな覚悟が生まれたのです。

――記者発表の段階から問い合わせが殺到したという神戸フィルムオフィスの創立。とはいえ、実際にロケを誘致して支援を実現するまでの道のりは困難を極めた。神戸フィルムオフィスの知名度はゼロ、フィルムコミッションの役割も知られていないのだから、それも当然。

田中　「あんた誰なん？」という状況でしたから、「神戸フィルムオフィスです」と連絡を入れたら、「はいはい」と受けてもらえる日が来るなんて想像もできなかった。とにかく最初の3年間は大変でしたが、街にも市役所にも警察や消防にも理解者が増えていって、本当に救われました。

道路を封鎖したり、絶対に無理だと思われていた地下鉄の線路内での撮影をいち早く神戸で実現したことで、それを前例にして日本の他都市でも大規模な撮影が行われるようになりました。そして、映像が持つ発信力に加えて、大好きな地元にいながら映画の仕事に関われるということも提示できたのでは、と思っています。いまや日本全国に300以上のフィルムコミッションがあるわけですから。

田中まこ

2000～2016年、神戸フィルムオフィス代表を務める。その後、2016年4月～2020年３月まで同オフィス顧問。ジャパン・フィルムコミッションでは理事長を経て、2019年から同顧問に。流通科学大学特別教授。

神戸フィルムオフィスが撮影支援した

映画・ドラマ ほぼ全部！List

2000年の創立から神戸フィルムオフィスが撮影を支援してきた作品は3000件を超えます。そのうち、映画とテレビドラマを一覧でご紹介。

※今回のリストには自主映画や学生映画は含まれていません。
※記載している年は神戸での撮影年度です。公開年ではありません。

[映画]

2000 『バタフライ』ムン・スンウク監督／『走れ!イチロー』大森一樹監督

2001 『GO』行定勲監督／『リターナー』山崎貴監督／『Run 2 U』カン・ジョンス監督

2002 『KILLERS/PERFECT PARTNER』辻本貴則監督／『GAIJIN 2』山崎チヅカ監督／『首領への道』石原興監督／『あずみ』北村龍平監督／『きょうのできごと a day in the planet』行定勲監督

2003 『ガキンチョ☆ROCK』前田哲監督

2004 『あずみ2』金子修介監督／『ゴジラ FINAL WARS』北村龍平監督／『みやび　三島由紀夫』田中千世子監督／『交渉人 真下正義』本広克行監督／『呉清源　極みの系譜』田壮壮監督

2005 『陽気なギャングが地球を回す』前田哲監督／『ありがとう』万田敏久監督／『ハリヨの夏』中村真夕監督／『天使の卵』富樫森監督／『ウルトラマンメビウス&ウルトラ兄弟』小中和哉監督／『おばちゃんチップス』田中誠監督

2006 『初雪の恋～ヴァージン・スノー』ハン・サンヒ監督／『0からの風』塩屋俊監督／『僕の彼女はサイボーグ』クァク・ジェヨン監督

2007 『ALWAYS　続・三丁目の夕日』山崎貴監督／『クローズZERO』三池崇史監督／『Sweet Rain　死神の精度』筧昌也監督／『神様のパズル』三池崇史監督／『火垂るの墓』日向寺太郎監督／『クリアネス』篠原哲雄監督／『新宿インシデント』イー・トンシン監督

2008 『ホームレス中学生』古厩智之監督／『悲しいボーイフレンド』草野陽花監督

2009 『ミロクローゼ』石橋義正監督／『死にゆく妻との旅路』塙幸成監督／『ノルウェイの森』トラン・アン・ユン監督／『ふたたび-Swing me again-』塩屋俊監督／『アウトレイジ』北野武監督／『GANTZ ／ GANTZ PERFECT ANSWER』佐藤信介監督／『メモリーズ・コーナー』オドレイ・フーシェ監督

2010 『マイ・バック・ページ』山下敦弘監督／『ALWAYS　三丁目の夕日'64』山崎貴監督／『生きてるものはいないのか』石井岳龍監督／『阪急電車片道15分の奇跡』三宅喜重監督／『わが母の記』原田眞人監督

2011 『DOG×POLICE　純白の絆』七高剛監督／『BRAVE HEARTS 海猿』羽住英一郎監督／『黄金を抱いて翔べ』井筒和幸監督

2012 『BUNGO ささやかな欲望　握った手』山下敦弘監督／『アウトレイジ ビヨンド』北野武監督／『少年H』降旗康男監督／『夏の終り』熊切和嘉監督／『シャニダールの花』石井岳龍監督／『ゲノムハザード ある天才科学者の5日間』キム・ソンス監督／『クローズEXPLODE』豊田利晃監督／『潔く柔く』新城毅彦監督

2013 『幕末高校生』李闘士男監督／『円卓』行定勲監督／『Idharkuthane Asaipattai Balakumara（インド・タミル映画）』Gokul監督／『YOUNGISTAN（インド・ヒンディー映画）』Syed Ahmad Afzal監督／『VAI RAJA VAI（インド・タミル映画）』Aishwarya Dhanush監督／『Alludu Seenu（インド・テルグ映画）』V V. Vinayak監督／『摂氏100℃の微熱』岡本浩一監督／『MIRACLE デビクロくんの恋と魔法』犬童一心監督／『紙の月』吉田大八監督／『繕い裁つ人』三島有紀子監督

2014 『寄生獣／寄生獣完結編』山崎貴監督／『ソレダケ／That's it』石井岳龍監督／『劇場版 神戸在住』白羽弥仁監督／『日本のいちばん長い日』原田眞人監督／『HERO』鈴木雅之監督／『この国の空』荒井晴彦監督

2015 『秘密 THE TOP SECRET』大友啓史監督／『日本で一番悪い奴ら』白石和彌監督／『ふたりの旅路』Maris Martinsons監督／『少女』三島有紀子監督／『サバイバルファミリー』矢口史靖監督／『ミュージアム』大友啓史監督／『高台家の人々』土方政人監督／『海賊とよばれた男』山崎貴監督／『デスノート　Light up the NEW world』佐藤信介監督／『オオカミ少女と黒王子』廣木隆一監督／『HiGH & LOW THE MOVIE』久保茂昭監督／『ハッピーアワー』濱口竜介監督

2016 『本能寺ホテル』鈴木雅之監督／『アウトレイジ最終章』北野武監督／『亜人』本広克行監督／『彼女がその名を知らない鳥たち』白石和彌監督／『幼な子われらに生まれ』三島有紀子監督／『追捕～ MANHUNT』ジョン・ウー監督／『鋼の錬金術師』曽利文彦監督／『嘘八百』武正晴監督

2017 『焼肉ドラゴン』鄭義信監督／『となりの怪物くん』月川翔監督／『寝ても覚めても』濱口竜介監督／『センセイ君主』月川翔監督

2018 『轢き逃げ 最高の最悪な日』水谷豊監督／『フォルトゥナの瞳』三木孝浩監督／『牙狼 GARO 月虹ノ旅人』雨宮慶太監督／『アルキメデスの大戦』山崎貴監督

2019 『罪の声』土井裕泰監督／『思い、思われ、ふり、ふられ』三木孝浩監督／『るろうに剣心　最終章　The Final/The Beginning』大友啓史監督／『スパイの妻』黒沢清監督／『The Story Game』Jason K. Lau監督／『僕はチャイナタウンの名探偵3～東京編～』チェン・スーチェン監督／『憤怒の海を渡る』曹保平監督／『名もなき世界のエンドロール』佐藤祐市監督／『日本国憲法』伊藤俊也監督／『天外者』田中光敏監督

[テレビドラマ]

2000 金曜エンタテイメント「少年Hー青春編ー」フジテレビ／ドラマ30「君のままで」毎日放送／火曜サスペンス劇場「内海の輪」日本テレビ

2001 「はぐれ刑事純情派　新春スペシャル」テレビ朝日／「女と愛とミステリー　大和路殺人事件」テレビ東京／「女と愛とミステリー　警察医・花井吾朗の殺人カルテ」テレビ東京／「愛と女とミステリー　グズ茂検事の犯罪捜査」テレビ東京

2002 木曜ミステリー「京都迷宮案内4　第7話」テレビ朝日／「私立探偵　濱マイク」読売テレビ／月曜ミステリー「早乙女千春の添乗報告書第13作神戸・淡路湯けむりツアー殺人事件」TBS／「天の瞳3」テレビ朝日／火曜サスペンス劇場「父と娘の真実」日本テレビ／土曜ワイド劇場「事件記者冴子の殺人スクープ!」テレビ朝日

2003 夜の連続ドラマ「かるたクイーン」NHK／木曜ミステリー「京都迷宮案内5　第11話」テレビ朝日／ドラマ愛の詩「パパトールド☆ミー　大切な君へ」NHK／ドラマ30「ショコラ」毎日放送／「失われた約束」関西テレビ／連続テレビ小説「てるてる家族」NHK／「女と愛とミステリー　誘拐者の声音その朝おまえは何を見たか」テレビ東京／ドラマ特別企画「離婚旅行」TBS／テレビ東京開局40周年記念ドラマ「赤い月」テレビ東京

2004 「野望の季節」SBS（韓国）／産学協同企画ドラマ「ニトナツ～恋も仕事も～」サンテレビ・KBS京都・TVKテレビ／連続テレビ小説「わかば」NHK／プレミアムステージ特別企画「僕と彼女と彼女の生きる道」フジテレビ／夜の連続ドラマ「アイ'ムホーム　遥かなる家路」NHK／ドラマ30「メモリー・オブ・ラブ」毎日放送／「ガラスの華」SBS（韓国）

2005 夜の連続ドラマ「ダイヤモンドの恋」NHK／金曜エンタテインメント特別企画「ずっと逢いたかった。」フジテレビ／終戦60年スペシャルドラマ「火垂るの墓」日本テレビ／ドラマ30「デザイナー」毎日放送／「女の一代記シリーズ　杉村春子悪女の一生」フジテレビ／木曜ミステリー「女刑事みずき」テレビ朝日／ドラマコンプレックス「松本清張スペシャル　共犯者」日本テレビ

2006 土曜ドラマ「新・人間交差点」NHK／二夜連続奇跡の夫婦スペシャル「虹を架ける王妃～朝鮮王朝最後の皇太子と方子妃の物語」フジテレビ／連続テレビ小説「芋たこなんきん」NHK／土曜ドラマ「スロースタート」NHK／土曜ナイトドラマ「桜2号」朝日放送／「関ジャニ∞冬休みドラマスペシャル　蹴鞠師」関西テレビ／土曜ナイトドラマ「H-code（ハンターコード）」朝日放送／「天使の悪戯」毎日放送

2007 ドラマ30「暖流」毎日放送／水曜ミステリー9「父からの手紙」テレビ東京／「女帝」テレビ朝日／産学協同企画ドラマ「愛しのファミーユ」サンテレビ・KBS京都・TVKテレビ

2008 水曜ミステリー9「誤算」テレビ東京／土曜ナイトドラマ「H-code（ハンターコード）2nd」朝日放送／土曜ナイトドラマ「幻影」朝日放送／「ホームレス中学生」フジテレビ／「世にも奇妙な物語'08秋の特別編」フジテレビ／土曜ワイド劇場「天才刑事野呂盆六Ⅲ」テレビ朝日／「スターの恋人」SBS（韓国）／NHKドラマスペシャル「白洲次郎」NHK／テレビ朝日開局50周年記念ドラマスペシャル「落日燃ゆ」テレビ朝日

2009 土曜ドラマ「再生の町」NHK／「DRAMADA-J あの夏の日の「友情部」」関西テレビ／阪神・淡路大震災15年特集ドラマ「その街のこども」NHK

2010 韓国ドラマ「逃亡者　PLAN B」KBS（韓国）／木曜ミステリー「科捜研の女'10（最終回スペシャル）」テレビ朝日／木曜ミステリー「科捜研の女スペシャル」テレビ朝日／2夜連続ドラマスペシャル「砂の器」テレビ朝日／オリンパスドラマスペシャル「光る壁画」テレビ朝日／連続テレビ小説「カーネーション」NHK

2011 ドラマスペシャル「愛・命～新宿歌舞伎町駆け込み寺～」テレビ朝日／月曜ゴールデン「狩矢警部シリーズ第11弾スペシャル　京都舞踊襲名殺人事件」TBS／「しあわせのかたち～脚本家・木皿泉　創作の“世界”～」NHK-BSプレミアム／ドラマ10「タイトロープの女」NHK／ドラマスペシャル「SP警視庁警護課2」テレビ朝日

2012 ドラマスペシャル「灰色の虹」テレビ朝日／月曜ゴールデン「狩矢警部シリーズ第12弾　京都香道殺人事件」TBS ／プレミアムドラマ「高橋留美子劇場」NHK-BSプレミアム／土曜ワイド劇場「広域警察3」テレビ朝日／月曜ゴールデン「遺品整理人・谷崎藍子Ⅲ～48年目の証人」MBS ／木曜ドラマ9「パパドル（第5話）」TBS ／連続テレビ小説「純と愛」NHK ／ドラマスペシャル「十万分の一の偶然」テレビ朝日／金曜プレステージ山村美紗サスペンス「赤い霊柩車30」フジテレビ／ドラマ10「いつか陽のあたる場所で」NHK ／「ピロートーク～ベッドの思惑～」関西テレビ

2013 松本清張没後20年特別企画「危険な斜面」フジテレビ／連続テレビ小説「純と愛」NHK ／金曜プレステージ山村美紗サスペンス「推理作家池 加代子　“殺しの文学賞”」フジテレビ／月曜ゴールデン「狩矢警部シリーズ第13弾　京都人形浄瑠璃殺人事件」TBS ／ドラマスペシャル「SP警視庁警護課3」テレビ朝日／ NHKスペシャルドラマ「東京が戦場になった日」NHK ／土曜ワイド劇場「タクシードライバーの推理日誌　神戸～九州大分　逃げた花嫁」テレビ朝日／月曜ゴールデン「遺品整理人 谷崎藍子4～身代わりの花～」MBS ／日曜劇場「半沢直樹」TBS ／木曜ミステリー「科捜研の女’13」テレビ朝日／「長谷川町子物語～サザエさんが生まれた日～」フジテレビ／連続テレビ小説「ごちそうさん」NHK ／金曜プレステージ「事件屋稼業2」フジテレビ／「パンドラ　永遠の命」WOWOW

2014 ドラマスペシャル「SP 警視庁警護課4」テレビ朝日／土曜ワイド劇場「おかしな刑事11」テレビ朝日／土曜ワイド劇場「ヤメ検の女5」テレビ朝日／月曜ゴールデン「遺品整理人　谷崎藍子5」MBS ／ NHK特集ドラマ「LIVE ! LOVE ! SING !～生きて愛して歌うこと～」NHK ／「イタズラなKiss 2 ～ Love in TOKYO」フジテレビ／木曜ミステリー「科捜研の女'14」テレビ朝日／「新・ミナミの帝王」関西テレビ／阪神・淡路大震災20年ドラマ「二十歳と一匹」NHK ／赤と黒のゲキジョー「浅見光彦シリーズ第52弾 神苦楽島」フジテレビ／テレビ未来遺産「ORANGE ～1.17 命懸けで闘った消防士の魂の物語～」TBS ／赤と黒のゲキジョー「上流階級～富久丸百貨店外商部～」フジテレビ

2015 「神戸在住」サンテレビ／ドラマスペシャル「迷宮捜査」テレビ朝日／「リキッド」NHK BSプレミアム／ NHK放送90年ドラマ「経世済民の男　小林一三～夢とそろばん～」NHK ／「煙霞-Gold Rush-」WOWOW ／ドラマスペシャル「ザ・ドライバー -親子再会への6千キロ-」テレビ朝日／土曜ワイド劇場「スペシャリスト4」テレビ朝日／木曜ミステリー「科捜研の女15'」テレビ朝日／「セレンディピティ物語～新しい自分に出会う旅～」毎日放送

2016 WOWOW開局25周年記念「沈まぬ太陽」WOWOW ／月曜名作劇場「みなと署落とし物係 秘密捜査官危険な二人～京都・神戸・奈良 殺人トライアングル～」TBS ／温泉殺人事件シリーズ「有馬温泉殺人事件」TBS ／山村美紗サスペンス「京都～神戸プロポーズ殺人事件!」テレビ朝日／ドラマスペシャル「検事の本懐」テレビ朝日／ドラマ10「コピーフェイス～消された私～」NHK ／ドラマスペシャル「人間の証明」テレビ朝日／連続テレビ小説「べっぴんさん」NHK

2017 木曜ミステリー「遺留捜査4　（第1話）」テレビ朝日／「あったまるユートピア」NHK BSプレミアム／特集ドラマ「どこにもない国」NHK ／ドラマ10「女子的生活」NHK ／「平成細雪」NHK BSプレミアム／連続テレビ小説「わろてんか」NHK ／「最後の晩ごはん」BSジャパン

2018 連続テレビ小説「まんぷく」NHK ／「カラスになったおれは地上の世界をみおろした。」NHK BSプレミアム／カンテレ開局60周年特別ドラマ「なめとんか やしきたかじん誕生物語」関西テレビ／フジテレビ開局60周年記念企画「レ・ミゼラブル 終わりなき旅路」フジテレビ／カンテレ開局60周年特別ドラマ「BRIDGE はじまりは1995.1.17 神戸」関西テレビ／土曜ドラマ「不惑のスクラム」NHK ／「元町ロックンロールスウィンドル」サンテレビ

2019 「刑事ゼロ　スペシャル」テレビ朝日／木曜ミステリー「科捜研の女’19　（第3話）」テレビ朝日／土曜ドラマ「心の傷を癒すということ」NHK ／よるドラ「だから私は推しました」NHK ／「遺留捜査スペシャル」テレビ朝日／大河ドラマ「いだてん」NHK ／ドラマスペシャル「検事・佐方～裁きを望む～」テレビ朝日／「スパイの妻」NHK-BS8K ／「猪又進と8人の喪女～私の初めてもらってください～」関西テレビ／ドラマ24「忘却のサチコ 新春スペシャル」テレビ東京／木曜ミステリー「科捜研の女’19（最終回スペシャル）」テレビ朝日

［ネット配信ドラマ］

2016 「The Outsider」Netflix

2017 「日本をゆっくり走ってみたよ　～あの娘のために日本一周～」Amazonプライム・ビデオ

2019 「今際の国のアリス」Netflix

パルシネマ前の坂 ｜ 兵庫区・新開地

かつての湊川を埋め立ててできた台地状の湊川公園。その公園の地下にあたる部分にミナエン商店街と名画座「パルシネマ」がある。パルシネマ前の急な坂道は、狙ってはつくりだせない風情があり、これからのロケ撮影に期待がかかる。

〈パルシネマ内での撮影作品〉ドラマ「心の傷を癒やすということ」、CM「ダイワハウス　ここで一緒に」

発行日:2020年9月1日
発行:神戸フィルムオフィス（一財）神戸観光局
651-0087　神戸市中央区御幸通6丁目1番12号
三宮ビル東館9階
TEL 078-262-1261　FAX 078-230-0808

編集:竹内厚（Re:S）
デザイン:吉田健人（bankto LLC.）
撮影:岡本佳樹（p8,9,12,表2,表3,表4）
イラスト:小西彩水（p16~19）、寺田マユミ（p10,11,13）

北野の路地

中央区・北野

異人館の洋館やハンター坂など、北野にはロケ地として使われる場所がいくつもあるが、そんな中、こちらの路地は知られざるスポット。 山本通のひとつ山側にある細い路地、旧ゲンセン邸の赤レンガが美しく迫る。

〈おもな撮影作品〉
映画『神戸在住』